

鈴鹿山系南部(亀山7座及び周辺の山域)の登山コース調査

(コース概況、改善箇所、評価) 2018.9. 30 2018.10. 20

亀山7座トレイル登山道活用ネットワーク

コースの全体概況

- ・一部(野登山表参道、仙鷄尾根)を除いて、登山者(入山者)は少なく、登山道は、小さな崩れや流木や土砂の堆積、草や木の枝の密生、朽ちた木の橋、古い道標、標識など、荒れている箇所が多くみられる。
- ・鈴鹿山脈の三重県側は断層崖の地形である。急傾斜、崩壊した斜面、谷筋が多く、登山道の多くが、その中を通過している。県境稜線上は、御所平、臼杵ヶ岳頂上部などには、なだらかな高原状の部分もみられる。
- ・道標(プレート、等)は、野登山表参道、石谷川(溪谷)、安楽川(溪谷)、仙鷄尾根、仙ヶ岳南尾根、白谷、御所谷に、古いプレートが設置されている(亀山市消防本部)。登山道は廃道化しているがプレートが残っているもの、草木が茂って見えないプレート、進行方向がわからないもの(誤解や間違いを招く地点表示のもの)、などがある。

ほとんど入山者が無いと思われるルート(御所谷、ガンサ谷、他)の道標も残存する。登山道(踏み跡)を示す目印(赤布、赤テープ)は、多くの尾根、谷筋にあるが、古くは炭焼き、現在では沢登り(溪流)、藪漕ぎの入山者、登山者がつけたものも多い。

登山者、入山者の状況

- ・交通アクセスが不便、駐車場の少なさ、登山道が不明瞭などの理由で、鈴鹿山系南部(亀山市域の山々、亀山7座)は、登山者は非常に少ない(静かな山行きが楽しめる)。
 - ・臼杵ヶ岳(ウス岩、キネ岩)、鬼が牙には、春(4月~5月)、秋(9月~11月)に、日帰りハイキングの登山者がある。(1日で自動車5、6台程度)
- 仙ヶ岳(野登山、仙鷄尾根)には、小岐須峡谷(鈴鹿市)から入る登山者が多い。
- 県境稜線(仙ヶ岳~安楽越~鈴鹿峠)を縦走する登山者は非常に少ない。
- ・インターネット情報には、マニアックな入山者(溪流・沢登り、藪漕ぎ)の記録も多くみられる。鈴鹿南部の山や谷(沢)に魅力を感じる人達には「魅力的な山域」でもある。

安全上の問題、課題

- ・登山の基点(登山口)から頂上までの登山道整備(道標設置を含む)
- ・登山道(登山コース)の評価(ファミリー登山、ハイカー的な登山に適するか、適さないか。安全な登山道か、困難が伴う登山道(難路、バリエーションルート)か。)
- ・野登山、仙ヶ岳、(御所平)、臼杵ヶ岳、(安楽越)、四方草山、三子山、(鈴鹿峠)、高畑山、錫杖岳、の特徴(自然、魅力、登山コース、他)のチラシ(パンフレット、資料、地図)の製作

- ・登山者に対する安全登山の注意喚起、啓蒙活動
- ・登山届の提出(提出箱)とその管理

登山者側の問題(道迷い登山の危険性)

- ・低山であっても登山には登山知識と技術、装備が必要であり、それを怠れば「道迷い」、滑落(転落)などの遭難事故がおこることが予想される。具体的には、注意力、地形の観察力、判断力、体力、気象知識と判断力が必要である。現実には、鈴鹿山系でも、多くの事故が発生している。

鈴鹿南部の山登りに必要な個人装備と体力と知識とルール(マナー)

・腕時計

余裕をみた通過時刻、下山時刻を確認しながら行動する為に必要、特に秋は午後3時には暗くなる。

・地図(登山地図、地形図)と磁石又はGPS

たえず地点確認をするのが登山に必要な技術

・歩く体力(持久力)

パーティ全員が、予定コースを、余裕をもち歩ける体力

・判断力

コースを間違えた時の判断、気象変化の時の判断、急病・ケガ・バテなどの時の判断

・登山計画を作る力

概念図、標高差と自分の体力、行動時間、エスケープ

・日帰り登山に最低限必要な装備

雨具、ビニール袋、手袋、ライト(2個)、薬(適)、ガムテープ(補修、テーピング)、行動食と非常食、水、ツエルト(非常テント)、小袋、10m細引き、通信機器、手帳とペン、TP

・(状況に応じて)

ヘルメット、スリング(ハーネス)、コンロ、ロープ(20mロープ~ひも類)、帽子、防寒具

評価基準

A	登山道が明瞭である。健康で標準的な体力のある方であればあれば、安心して山登り(上り下り)ができる。初心者(ビギナー、高齢者)向け、ファミリー向けである。
B	登山道は比較的明瞭であるが、一部に、滑りやすい場所や岩場がある。滑落や転落の危険は少ない。初心者を含む場合、全体(上り、下り、林道歩き)のコース距離、天候、体調、人数による体力差、チーム(パーティ)の協調性などを注意する必要がある。

C	(基本的にはBであるが) 登山道が荒廃している箇所、不明瞭な箇所が、数か所存在する。
D	岩場、谷を登る箇所がある。または登山道が不明瞭な地点があり、必要な読図力(地形図の等高線、がけ等の記号など)を身につけた中級者以上向けのコース。ハシゴ、クサリ等の困難な地点の通過があり、転落、滑落、落石の危険が伴うコースである。
E	登山道の不明瞭な藪(ブッシュ)、岩場、谷の中の渡渉、滝の高巻き、などが含まれるコースである。高い技術、経験、知識、読図力(地形図を読む力)が要とするコースである。
F	岩場、滝、雪渓などの危険箇所が多くあり、滑落、転落、道迷い、落石などの緊張を強いられる。一般的に 5 月～11 月までの(無雪期の)鈴鹿山系では、中部の岩場や沢を除いて、存在しない。しかし 1 月～3 月の積雪期には、鈴鹿山系の全域がこの範疇に該当するものと考えなければならない。

* 所要時間(コースタイム 目安時間) 初心者が体力的に無理なく歩ける時間を示す。
休憩時間は含まない。

山域別の登山コースのコース概況と安全度評価

[I]仙ヶ岳・野登山 山域

コース名	コース概況	改善箇所(修理箇所)	評価 [上り・下り]
坂本～野登山	野登山(ののぼりやま)の頂上は、鶏足山野登寺(けいそくさんやとうじ)と呼ばれる古寺がある。坂本から表参道を通じ、登山道として使用されている。野登山から仙ヶ岳の尾根を仙鷄尾根という。坂本駐車場(坂本棚田バス停)はトイレあり。集落のはずれの獣害対策ゲートが登山口。鶏足山表参道コースの表示。尾根沿いにジグザグに登り、車道を横切り、再び登山道に入る。夢想庵の広場から再び山道へ。尾根沿いに登り、広場、トイレ、石門をくぐり、登山道から参詣道に入り本堂に進む。登山道に戻り、頂上、国見広場に行く。国見広場からの展望が良い。車道を 20 分歩くと仙鷄尾根入口に到着する。夢想庵の広場から、野登山頂上部をパスして仙鷄尾根、仙ヶ岳を目指す場合は、車道を約 20～30 分進むと仙鷄尾根入口。(所要時間 約 2 時間)	頂上部一帯は杉の巨木や樹林の森である。車道があるので登山道への入り口を見逃さないようにしたいので、標識が必要。	[A・A]
坂本～ミツマタ群生地～仙鷄尾根上のコル(778 のピーク東側)	坂本棚田前の駐車場から 5 分で、集落の中を西に曲がる。獣害防止ゲートから林道を進む。暗い植林の中の細い車道(林道)を矢原川の左岸側の谷に沿って歩く。自然に登山道に入るが、目印(テープ)あり。2 か所小さい沢を渡る。水の補給可、夏はヤマビルも多い。古い作業小屋を過ぎ、スギ林の中の「ミツマタ群生地」とな	(尾根上は登山道とはいえず踏み跡程度、道標はなし。)	[B・C]

	<p>る。その後、矢原川の左岸の尾根にあがり、やせた尾根を踏み跡を忠実に登る。このコースを下りに使用すると支尾根に入りこみやすい。仙鷄尾根(せんけいおね)に近づくと、尾根の西側は自然林、東側は植林帯になり、最後は植林帯(右側)に回り込み、コルに飛び出す。「仙鷄尾根2」の表示。(上り 所要時間 約2時間30分)</p>		
石水溪～石谷川上流・営林署小屋跡(A地点)	<p>石水溪の野外研修施設前が駐車場(約20台)、トイレが有るので登山口として適している。石水溪は安楽川沿いであるので石谷川沿いに渡らなければならない。夏の間だけ営業するキャンプ場のバンガローの前の看板の横から、石谷川沿いの林道最終駐車地点(数台駐車可能)に至る踏み跡があるので、その道を利用する(約10分)。ただし石谷川本流の渡渉地点があるので増水時は要注意。林道最終駐車地点には車数台駐車可能の駐車場がある。林道は荒廃しているが、30分ほど歩き、営林署小屋跡手前の広場(A地点)に着く。(所要時間40分)</p>	<p>渡渉地点は、過去に橋があったが、現在ない。林道は数か所土砂が堆積している。1か所崩れているが通行は可能。</p>	[B・B] (ただし、下線部の渡渉地点はD)
A地点～南尾根～仙の石(仙ヶ岳東峰)	<p>道標にしたがい、「南尾根・仙の石」への登山道に入る。炭焼き窯跡のある沢沿い(イタハシ谷)に登る。水量は多くはないが丸太橋が3か所朽ちかけているので注意する。30分ほど登ると石がゴロゴロしている沢(伏流)を登る。急傾斜で石が不安定であるので落石に注意する。尾根上のコル(鞍部)にでると、右に不動尊が祀られた岩場がある。</p> <p>南尾根取り付きの岩場があるが、ここからはバリエーションルート(安全な登山道ではないルート、困難を伴うルート)である。固定ロープがあるが、ホールドやスタンス(足場)を落ち着いて確認して登りたい。踏み跡をたどりP5の岩峰の横を巻く。以後、P1の岩峰までやせ尾根が続く。岩峰の右や左側を巻きながら、アップダウンを繰り返しながら登っていく。5月にはアカヤシオが咲き、巨大な花崗岩の仙の石を見ながらの醍醐味あふれるルートであるが、下りには初心者は使用するべきではない。転落、滑落、落石に要注意。</p> <p>仙ヶ岳(西峰、961m)は均整のとれた美しい双耳峰で、魅力を感じるピーク。三重県側には石谷川、矢原川などの魅力のある谷が切れ込み、南には緩やかな御所平(ごしょだいら)の県境稜線が延々と続く。(所要時間 2時間～3時間)</p>	<p>不動尊コルまでの急斜面は、浮石がみられる。また両側の崖からの落石が心配。</p> <p>南尾根上の岩峰の通過のための赤布・赤テープ類。</p>	[D・D]
A地点～白谷	<p>石水溪から仙ヶ岳に登るポピュラーなコースとして紹</p>	(未)	[B・C]

～仙の石（仙ヶ岳東峰）	介されるが入山する登山者は少なく、最後に谷をつめあがる部分は、不安定な石が多く踏み跡程度である。赤テープ等の確認をして、地形（谷筋の中心に沿い）を見て歩く注意力も必要。また谷コースなので雨後は滑りやすい。前半は石谷川に沿って左岸から右岸へ、右岸から左岸へと溪谷の中を歩く。溪谷を離れての高巻き、クサリ場（現在は2本のハシゴで側壁を下りる）もある。御所谷分岐をすぎ、白谷に入る。堰堤を越えて河原にでた後は、右岸沿いにどンドン谷をつめて、高度をかせぐ。最後は、仙の石（東峰）と仙ヶ岳（西峰）の鞍部にでる。（所要時間 2時間）		
野登山～仙ヶ岳（仙鷄尾根）	岩場でやせ尾根の部分（キレット）が2か所あり。上り下りを繰り返す。赤テープやケルンを確認して確実に通過したい。小岐須溪谷（屏風岩）からの登山道が合流すると岩場が1か所ある。現在、足元の岩が崩壊している。万全の注意をして、確実に通過したい。	岩場の崩壊地点	[C・C]
A地点～御所谷～県境稜線（御所谷分岐）	途中までは白谷までの記述を参照してほしい。最初は明瞭な登山道であるが、右岸側に滝の高巻きをする（危険）。徐々に踏み跡になり、やがて踏み跡も消える。古いプレート（御所谷の表示）は残存する。最後は谷筋を詰めあがる。	未	[D・D]

[2]御所平（ごしょだいら） 山域

仙ヶ岳～御所平（県境稜線）	仙ヶ岳（西峰）からコル（御所谷分岐）を経て御所平の南西端（ヨコネ、832p）までの県境稜線である。県境稜線といえども踏み跡程度で稜線上を赤テープに注意して忠実に西方向に進むが、稜線は左右にジグザグになっており注意を要する。コル（御所谷分岐）から二次林の林の中の踏み跡を登り返すが、ヨコネのピークは近いので頑張るとすぐに大展望の広がるピーク（ヨコネ、832p）に飛び出す。周囲はシカの食害から残ったアセビ（馬酔木）の群落になっている。 御所平は長さ 1500mの細長い緩やかな尾根で、草原（ススキ、カヤト）になっている。鎌ヶ岳、仙ヶ岳をはじめとする鈴鹿山脈の大展望が楽しめて、どこでも休憩可能である。少し痩せていて鹿よけネット沿いに踏み跡になっている所もあるが、視界が良ければ道を間違えることはないが、ガス（霧）、雨や雪で視界が悪いと充分道迷いの危険はある。地形図と磁石は必携である。御所平だ	未	[C・C]
---------------	--	---	-------

	けでも十分魅力があるが、ここへ到達する御所谷、ガンサ谷ルートは深く、素人(初心者)には推奨できない。		
ガンサ谷～御所平の南西端	A地点からすぐ本流を渡る。七ツ釜コースの道標があるが、この道標を見て、意味を理解するのが難しい。赤布の目印にしたがって谷沿いの踏み跡を進むが歩きにくい。木の橋は朽ちており、シダ類が登山道を覆い、蜘蛛の巣とヒルに閉口する(9月)。狭い谷の右岸の側面に道は続くが、谷の芯は小滝が連続する。やがて樹林帯の中の広い河原になり、雰囲気は良くなる。炭焼き跡もみられる。3つ目の堰堤を右岸側から巻いた後は、急傾斜の尾根を、トラロープと木の枝につかまりながら這い上がると、県境稜線の草原の峠に出る。		[D・D]

[3]臼杵ヶ岳山城

石水溪～ウス岩・キネ岩～臼杵ヶ岳			
安楽越～臼杵ヶ岳	石水溪から安楽越までは約 2.7 kmの舗装路、歩けば、40～50分程度である。駐車は 3.4 台は可能であるが狭い。かもしか高原までは県境稜線が東海自然歩道になっており、階段がつけられている。小さいアップダウンを繰り返して 15 分程度で、笹原の中の「かもしか高原」の案内板看板がある。尾根の両側は植林帯で薄暗い。(安楽越山 分収造林地の看板あり) 県境稜線の道は、踏跡と言った方がよい。分岐が 3 か所あるが間違いやすい。地形図、磁石(進行は東北東の方向)、実際の県境尾根の観察、赤テープの有無等で判断したい。15 分ほどで、標高 697mの臼杵ヶ岳に到着する。樹林帯の中の頂上は休憩適地である。東側の展望が良い。野登山と仙ヶ岳も美しい。		[C・C]

[4]錐ヶ岳(きりがだけ)・霧ヶ岳・四方草山(しおそやま)山城

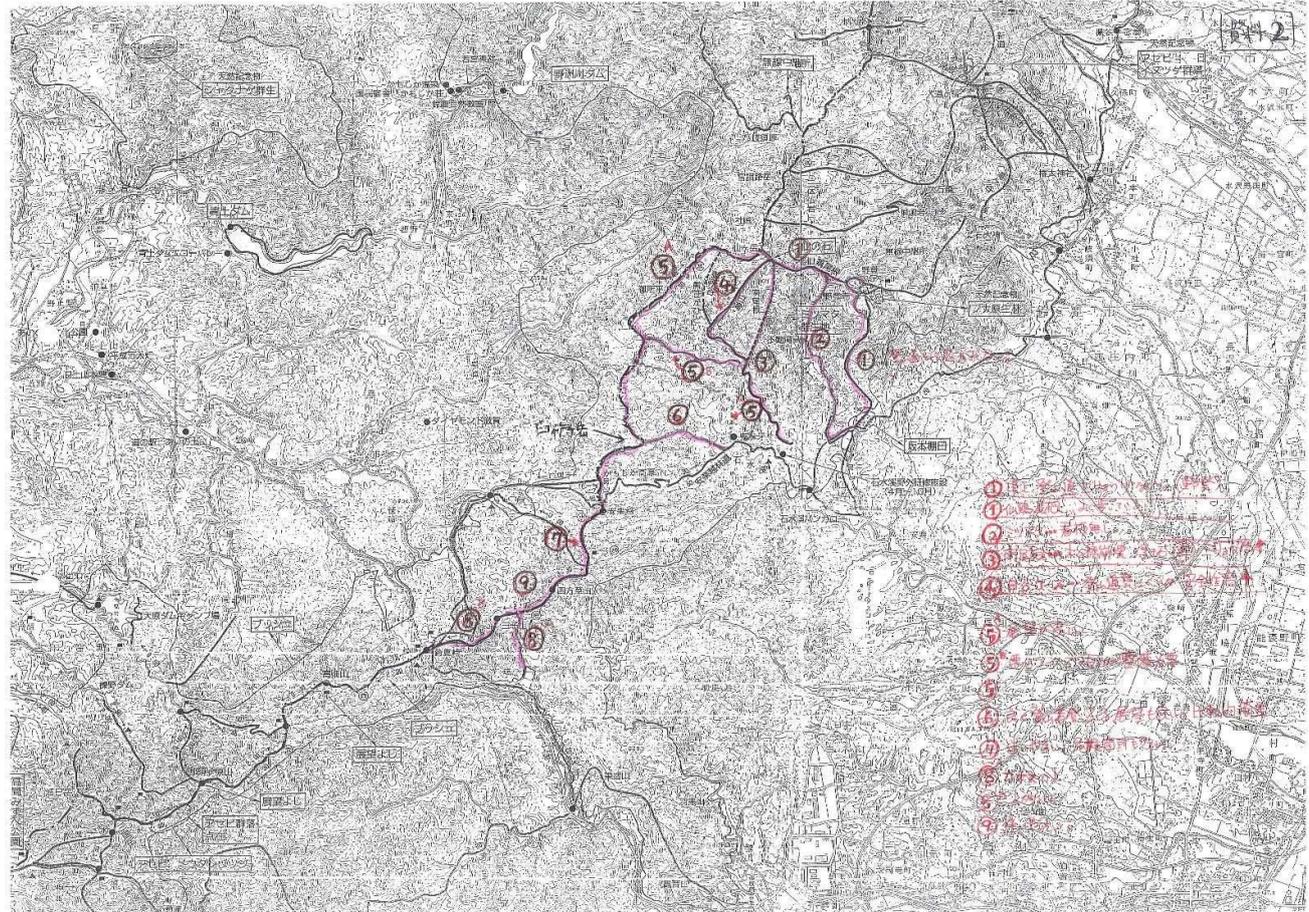
安楽越～四方草山	(安楽越までは前述)このルートは県境稜線であるが、迷いやすく危険な岩場がある問題の区間である。登山者も少ない。ただし、鈴鹿山脈を全山縦走する者にとっては通過せねばならない。安楽越から大峠までは、登山道が不明瞭であり、直角に曲がる所が3か所ある。大峠から錐ヶ岳までは、キレットになっている岩場がある。(岩はもろく、手掛かりも少ない。ロープも古い。落石に注意して、バランスに注意して慎重に行動したい。特		[D, D]
----------	---	--	--------

	<p>に、下りの方が危ない。)一旦、鞍部に降りて(小峠)、登り返すと霧ヶ岳の頂上である。滋賀県側の展望は良い。いったん稜線を下り、登り返すと霧ヶ岳であるが、頂上手前で直角に曲がる。さらに四方草山直前で右に曲がる地点があり、その両方とも分岐になっており間違えやすい。地形図、磁石で進行方向の確認が必要である。667mの四方草山の頂上は展望のない頂上らしくない所である。</p>		
--	---	--	--

[5]三つ子山・鈴鹿峠山域

<p>坂下～三子山～鈴鹿峠</p>	<p>鈴鹿峠自然の家から坂下集落の高台にある老人ホームまで約 20 分。さらに細くて急な道を約 10 分登ると舗装路の終点に着く。植林の中の尾根の末端に赤テープをみつけたら、尾根の中の踏み跡をを忠実に登る。黄色、白色のテープも幹に巻かれている。急な尾根道をあえぎながら登り続けると、舗装路終点から約 40～50 分で、亀山市と旧関町の境界に出て、すぐに県境稜線上のピークにでる。3方向(県境稜線、老人ホーム)の標識あり。</p>		

* 高畑山、錫杖岳 未定稿 調査次第更新いたします。



仙ヶ岳登山口道路の補修作業 現地活動記録

平成31年3月26日(火) 9:00~11:00

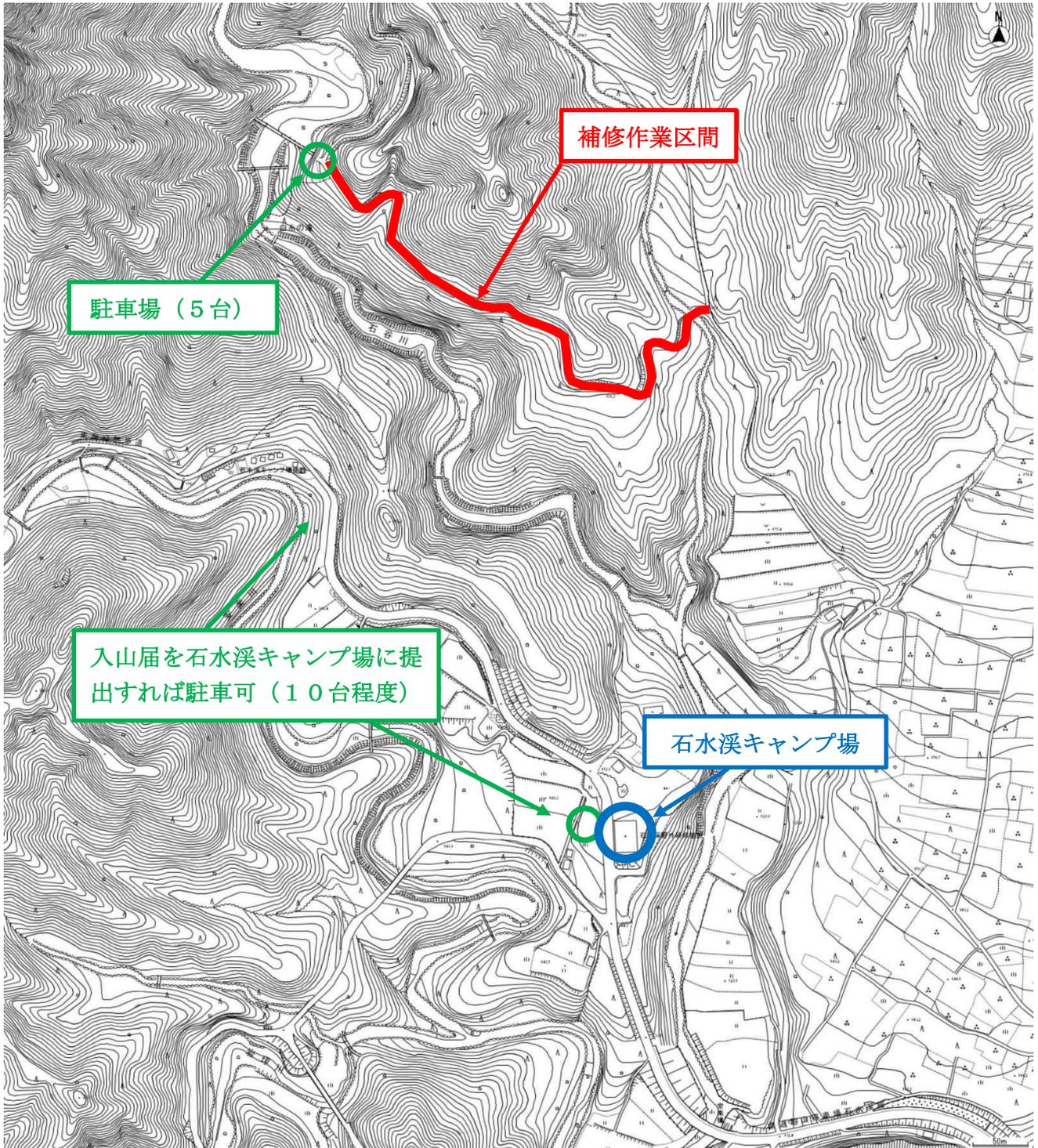
鈴鹿高等学校山岳スキー部生徒5名が参加し、石水溪観光協会松本会長の指示のもと、ネットワーク関係者が、仙ヶ岳登山口道路の車両通行に支障となっているわだち等を土のうでの補修作業を行いました。

今回土のうを180袋用意しましたが、すべて使用しても補修作業が完了できませんでしたので、平成31年度に十分な準備を行い、シーズン前までに再度補修作業を行う予定です。

作業区画については、仙ヶ岳登山道入口から石谷川砂防堰堤までの区間です。(詳しくは、別紙の地図をご覧ください)

活動中の作業風景





補修作業区間

駐車場 (5台)

入山届を石水溪キャンプ場に提出すれば駐車可 (10台程度)

石水溪キャンプ場

亀山市域登山道の概況 (2019. 4.24)

	登山道（登山コース）名称 番号	コース概況	危険地点、問題点
1	野登山表参道 ①	幅の広い安定した道。途中で車道にて、再び登山道に入る。頂上部は杉の老木に囲まれた野登寺と東の三角点のある頂上に分かれる。	特になし。
2	仮称（ミツマタ尾根、独標尾根）②	ミツマタ群生地までは車道と登山道でよく踏まれている。ミツマタ群生地は谷（ハカン谷）の上部。778mピークから南に延びる尾根に上がる地点で直角に曲がるが、林業の表示以外、道標がないので、下りの登山者は直進する恐れ（道迷い）。上の尾根ルートは、踏み跡であるが明瞭。仙鷄尾根に出るところで右に巻き鞍部にでるが、植林の道も混じり、表示が必要である。	岩場、崩落地はない。
3	仙鷄尾根 ③	野登山から仙ヶ岳の尾根。やせ尾根、露岩、ガレ場、急な登り（下り）が連続する。露岩、ガレ場には固定ロープを利用して進む。（ガイドブックには一般登山道と記載されるが、未経験者には辛いコース）	小岐須（屏風岩）からの登山道が合流する地点（コル）の上が崩壊が進み、1か所固定ロープがなければ通過不可。「仙鷄尾根」のプレートは数か所ある。
4	仙ヶ岳南尾根 ④ バリエーションルート（一般登山道ではない、地図に登山道として記載されていないルート、技術的に困難なルート）に近いルートとして紹介される。	仙ヶ岳の登山道で登山の醍醐味、展望が味わえる人気のルートであるが、体力、技術、経験が必要なルートである。イタハシ谷の部分は狭く深い谷の側壁を固定ロープや木の橋を利用。木の橋は老朽化して1か所崩れ落ちており、谷沿いに迂回ルート設置（4.4）。谷上部は枯れ沢で落石に注意しながら登る。不動明王のコル（鞍部）から南尾根となる。取り付きは固定ロープ	老朽化した木の橋、固定ロープも古くすりきれているものもある。南尾根の連続する岩峰 P1～P5 は慎重に登る。ルートを探す力も必要、初心者や高齢者が下りに使用するのは事故の危険が伴う。

		<p>を利用、岩登りの基本的な三点支持（登り方）が必要。やせ尾根の中のルートで、踏み跡程度の部分もあるが赤テープが適度につけられている。</p>	
5	仙ヶ岳白谷（しらたに） ⑤	<p>南尾根との分岐に道標。石谷川の右岸、左岸と渡渉しての登山道を進む。崩壊した岸壁（側壁）にハシゴ（2本）、クサリが設置されている。大ザック（メインザック）の登山者の通行は困難である。古い木の橋があり、早急な修理が必要。御所谷出合まで右岸側、左岸側を繰り返しながら進むが、渡渉点の赤テープを見逃しやすい。大きな石積堰堤の右側を上がり河原に出る。明るい白谷の上部を赤テープに導かれて、稜線にでる。</p>	<p>ハシゴ、渡渉点（増水時）、木の橋</p>
6	葺谷（ふきたに、ガンサ谷） ⑥	<p>谷上流部は崩壊で堆積した土砂が登山道を覆う。中流部は広く炭焼き跡も点在。七ツ釜コースの表示板が残る。下流部は狭く谷が連続し、シダが登山道を覆う。周辺はシキミ業者の伐採地。腐った木の橋8か所。（特に谷上部の崩壊が進み、一般登山道としては不向き）</p>	<p>（崩壊が進み、利用する登山者は、極端に少ない。）</p>
7	御所平（ごしょたいら）	<p>県境稜線が、南西から北東方向に、ゆるやかに幅広く約1500m続いている。笹原、ススキの中のアセビが点在する。展望に優れ、仙ヶ岳と南尾根がどんどん大きくなる。</p>	<p>踏み跡程度なので、ガス、雨、雪などで方向を失う危険は大いにある。（地図、磁石、それを使用する力が必携。）</p>

亀山市域(鈴鹿山系南部 仙ヶ岳～高畑山) 錫杖ヶ岳(向井ルート) 登山道概況(2019. 5.20 現在)

[1]野登山と周辺

	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概況	危険地点、問題点
①	野登山表参道 (1)～(4)	幅の広い安定した道。途中で車道にでて、再び登山道に入る。頂上部は杉の老木に囲まれた野登寺と東の三角点のある頂上に分かれる。	参道(登山道)と車道が交差するが、特になし。
②	仮称(ミツマタ尾根、独標尾根) (5)～(6)	坂本棚田、坂本集落の曲がり角に地図表示、道標(国定公園協会)あり。獣害対策ゲートには道標ない。ミツマタ群生地までは車道に続いて、よく踏まれた登山道である。ミツマタ群生地は谷(ハカン谷)の上部一帯。3～4 月はハイカー多い。群生地の上で尾根(778mピークから南に延びる尾根)に上がる。その地点には林業表示以外、道標はない。(下りの場合道迷いする可能性高い。)その後、尾根は、明瞭な踏み跡。仙鷄尾根に出るところで右に巻き鞍部にでる。	岩場、崩落地はない。 坂本棚田、坂本集落内に道標があるのみで、その後の道標は全くない。
③	仙鷄尾根 (7)～(10)	野登山から仙ヶ岳に至る尾根。鈴鹿市と亀山市の境界。 やせ尾根であり、花崗岩の露岩、ガレ(ザレ)場、急な登り(下り)が連続する。露岩、ガレ場には固定ロープあり(数か所)。現在、小岐須からの合流点の上の岩場が、一部崩壊がして、通行に危険な状態。ガイドブックには一般登山道と記載されるが、初心者、未経験者には辛い。	危険地点多い。 小岐須(屏風岩)からの登山道が合流する地点(コル)の上は崩壊が進み、固定ロープがなければ通過不可。 「仙鷄尾根」と書いたプレートがある。

* ガレ場 岩石が崩壊してガラガラしている所 ザレ場 砂礫が堆積している所

①野登山表参道 写真 (1)(2)(3)(4)



登山口(1)



登山口「鶏足山野登寺」の表参道(2)



表参道 整備された広い道(3)



鶏足山野登寺境内(4)

②ミツマタ尾根(5)～(6)



ミツマタ群生地(5)



ミツマタ尾根から尾根に上がる地点 下り時は注意する。(6)

③仙鷄尾根 写真(7)～(10)



花崗岩のやせ尾根(7)



花崗岩のやせ尾根 固定ロープあり(8)



小岐須峡谷分岐 小岐須溪谷からの登山者が多い。(9)



仙鷄尾根の崩壊地点 崩壊して危険(要注意)(10)

[2]仙ヶ岳とその周辺(鬼が牙、御所平)

	登山道(登山コース)名 写真番号	コース概況	危険地点、問題点
④	仙ヶ岳南尾根コース (11)~(20)	<p>登山の醍醐味、展望が味わえる人気のルートであるが、岩登りの基本的技術が必要なルート。石谷川林道を約30分歩く。林道は落石、土砂堆積等で歩行のみ可。林道の最奥は広場で葦谷との分岐である。登山道を少し進むと旧営林署跡で、南尾根、白谷コース分岐である。</p> <p>イタハシ谷(前半)は狭く深い谷。側壁を固定ロープや木の橋を利用して進むが、木の橋は老朽化して1か所崩れ落ちており、谷沿いに迂回ルート設置(4.4)。上部は枯れ沢で落石、浮石に注意が必要。不動明王の科尔(鞍部)から尾根道(南尾根)となる。取り付きの岩場は、固定ロープを利用。子供、</p>	<p>老朽化した木の橋、固定ロープも古くすりきれているものもある。南尾根の連続する岩峰 P1~P5 は慎重に登る。ルートファインディングの力も必要。</p> <p>南尾根を走って下ることは特に危険である。また初心者や高齢者が下りに使用するのは事故の危険が伴うので要注意である。</p> <p>※バリエーションルート(一般登山道ではな</p>

		高齢者等にはやや難しい。(経験豊富なリーダーの補助、三点支持のアドバイスが必要である。岩峰 P1～P5 が尾根上に続く。踏み跡程度の部分もあるが赤テープが適度につけられているので、慎重にルートファインディングをしてよじ登る。	い、地図に登山道として記載されていないルート、技術的に困難なルート)に近いルートである。
⑤	仙ヶ岳白谷(しらたに)コース(21)～(26)	南尾根コースの分岐の道標から、石谷川の右岸、左岸と渡渉して進む。崩壊した岸壁(側壁)にハシゴ(2 本)、クサリが設置されている。大ザツクの登山者の通行は困難。腐った木の橋は、早急な修理が必要。御所谷出合まで右岸側、左岸側を繰り返しながら進む。渡渉点の赤テープを見逃しやすい。石積堰堤の右側を上がり河原に出る。白谷の上部は明るい。道は不明瞭、赤テープに導かれて、稜線にでる。	ハシゴ、渡渉点(増水時)、木の橋
⑥	葺谷(ふきたに、ガンサ谷)	谷上流部は崩壊で堆積した土砂が登山道を覆う。中流部は広く炭焼き跡も点在。七ツ釜コースの表示板が残る。下流部は狭く滝が連続し、谷の側部の登山道をシダが覆う。周辺はシキミ業者の伐採地。腐った木の橋 8 か所。(特に谷上部の崩壊が進み、一般登山道としては不適)	谷の上流部(源頭部)は崩壊が進み、利用する登山者は、皆無又は極端に少ない。谷下流部は小滝が連続して、登山道は荒廃。
⑦	御所平(ごしょたいら)	県境稜線が、南西から北東方向に、ゆるやかに幅広く約 1500m 続いている。笹原、ススキの中のアセビが点在する。展望に優れ、仙ヶ岳と南尾根が大きくなる。	踏み跡程度なので、ガス、雨、雪などで方向を失う危険は大いにある。(地図、磁石、それを使用する力が必携。)
⑧	御所平南西端から小太郎峠(県境稜線)	南西端から下る県境稜線の道は直角に曲がっているのが見落としやすい。県境稜線であるが植林の広い斜面であるので、わかりにくい。葺谷ルートとの分岐(道標なし)をすぎると、植林の中を 15 分程度歩き、小太郎峠である。その真上	登山道は明瞭であるが、左右に曲がる所が随所にある。(地図で地点確認の必要)

		が大岩。標識あり。	
⑨	石水溪から鬼が牙～長坂の頭～小太郎峠	鬼が牙までは2ルートあり。急登。三つ淵ルートは薄暗い谷、険しい岩場を登るが、慎重が必要である。アップダウンの多い尾根でガレ場(固定ロープ)が長坂の頭の東側、西側等にも3,4か所ある。	ガレ場が鬼が牙の登り、長坂の頭の登り、下降にあり、注意を要する。
⑩	小太郎峠から臼杵ヶ岳	樹林帯(大半がヒノキ植林)のゆるやかな県境稜線。	県境稜線からベンケイに延びる尾根に入りやすい。道標が必要。
⑪	船石林道(船石谷)から長坂の頭尾根	船石林道終点から入る。うすい踏み跡だが、赤テープあり。比較的歩きやすい尾根。(登山道ではない)	道迷い防止の道標が必要。

* ルートファインディング ルートが曖昧なところで、見分け見出すこと。 コル(鞍部) 稜線上(尾根上)でピークとピークの間の低い所

④仙ヶ岳南尾根 写真(11)～(20)



南尾根・白谷分岐手前の木橋(11)増水時以外は通行可能。



南尾根・白谷分岐手前の木橋(12)増水時以外は通行可能。



南尾根・白谷分岐 道標(国定公園協会) (13)



下部イタハシ谷右岸側の老朽化した木橋(14)



右岸側 木橋が朽ちて谷側に落下、谷沿いに迂回コース(15)



迂回コースを表示(下る方向) (16)



南尾根 P3 (17) 好展望



南尾根 P3、P4 の間 (18)



南尾根から見る仙の石(東峰) (19)



仙ヶ岳(西峰)鈴鹿高校山岳スキ一部員(20)

⑤仙ヶ岳白谷コース 写真(21)～(26)



白谷コース クサリ場(21)



白谷コース ハシゴ1(22) 揺れるので慎重に利用する。



白谷コース ハシゴ2(23) 慎重に利用する。



白谷コース 古い木の橋1(応急処理後)(24)



白谷コース 古い木の橋1(頭上にロープ) (25)



白谷コース 古い木の橋2(横を歩く) (26)

⑥葦谷(ガンサ谷) 写真 (27)～(32)



葦谷全景 (27)



谷源頭部のガレ(28)



谷中流の古い道標(29)



谷中流部は広い河原状(30)



下流部の小滝(登山道は右岸側)(31)



老朽化した木の橋(32)

⑦御所平 写真(33)～(36)



御所平の遠景(33)



ゆるやかな稜線(かつての笹原は消えた)(34)



緩やかな下り(35)



バイケイソウ(4月下旬)(36)

⑧御所平南西端から小太郎峠(県境稜線) 写真(37)~(38)



樹林帯の中の縦走路(37)



樹林帯の中の縦走路2(38)

⑨石水溪~鬼が牙~長坂の頭~小太郎峠・大岩(県境稜線) 写真 (39)~(48)



鬼ヶ牙三ツ淵(谷)ルート 険悪なすべりやすい岩場(39)



鬼ヶ牙三ツ淵ルート(固定ロープあり、危険大)(40)



鬼が牙東峰(41)



鬼が牙頂上付近花崗岩の露岩上の道(42)



花崗岩が風化したザレ場の歩きにくい道(43)



同じザレ場の道(44)



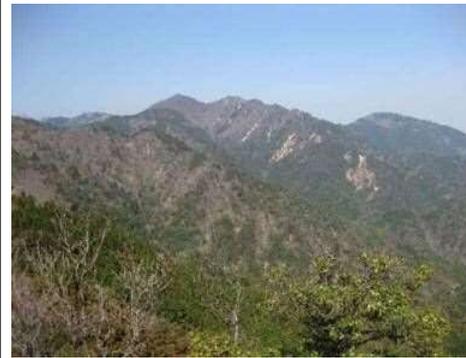
ガレ場を避けた巻き道(ロープが垂らしてある)(45)



長坂の頭(46)

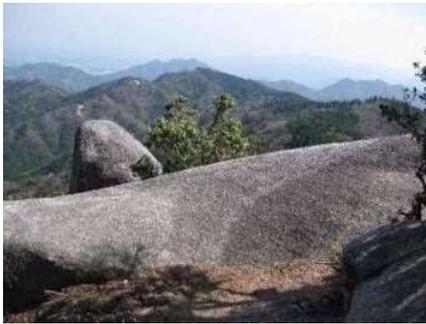


長坂の頭北側のガレ場の下降地点(固定ロープ)(47)



県境稜線から仙ヶ岳遠景(48)

⑩小太郎峠から臼杵ヶ岳 写真(49)～(52)

	
<p>船石(舟石) (49)</p>	<p>左が県境稜線、右がベンケイ 道標なし(50)</p>
	
<p>臼杵ヶ岳 頂上 樹林帯の中のピーク(51)</p>	<p>同じ 2, 30 人なら休憩可能な広い頂上(52)</p>

⑪船石林道(船石谷)から長坂の頭尾根 写真 (53)～(56) (未撮影)

[3] 臼杵ヶ岳とその周辺

⑫	ウス岩・キネ岩経由で臼杵ヶ岳	比較的多くのハイカーに登られているルートである。急登で道が細い部分もある。巻き道が多い。	臼杵山付近に、道迷い防止道標必要。
⑬	安楽越から臼杵ヶ岳(県境稜線) 写真 (59)~(60)	カモシカ高原までは東海自然歩道。以後、県境稜線。	支尾根と合する数地点に道標必要。

⑫ ⑬ウス岩・キネ岩経由で臼杵ヶ岳、安楽越へ(県境稜線) (57)~(60)



(57)登山口 車数台駐車可能



(58)樹林帯(広葉樹)の中よく踏まれている。



(59)急斜面は細くなる。



(60)ウス岩付近の岩場

[4]四方草山(しおそやま)、三子山とその周辺

<p>⑭</p>	<p>安楽越から四方草山(県境稜線)</p>	<p>石水溪から安楽越は東海自然歩道(車道)を歩く。安楽越は車数台分駐車可。安楽越からは県境稜線であるが、曲がりくねっている。支尾根に入り込まない、急な下りでのスリップにも注意が必要。大峠から錐山までは非常に痩せたキレット状の尾根である。特に三重県側の崩壊が激しい。転落の危険があるほか、岩質がもろく、浮石、落石にも要注意。錐山(錐ヶ岳)は狭いが好展望のピーク。一旦下って登り返した地点(登山道が直角に曲がる地点)が霧ヶ岳の西端(頂上標識は三重県側の樹林の中。)である。県境稜線を西、さらに南西に進み、三角点(667m)のある四方草山の頂上に到達するが、頂上は見晴らしの利かない樹林の中である。</p>	<p>安楽越～大峠は道間違いやすい。 キレットは非常に危険。 霧ヶ岳の西端から県境稜線に進むが、間違えやすい。</p>
----------	------------------------	---	---

⑮	カナシロ越から霧ヶ岳	石水溪から「関・池山広域林道」を利用してカナシロ越につく。道端に駐車。霧ヶ岳から雨引山に延びる尾根を利用して歩いた。うすい踏み跡と古い赤テープがあるが、展望がきかない樹林を進むが、1か所ガレ場がある。読図力と体力で、特に下りに利用するときは、進む尾根と支尾根の判別がつきにくい(道迷い可能性大)。特別な目的(霧ヶ岳～雨引山縦走)等でもない限り、お勧めしないルート。	踏み跡がうすく間違えやすい支尾根が多く道迷い可能性大。
⑯	坂下(集落)から霧ヶ岳	坂下から広域林道を約1キロ東へ。小広場(三井物産看板あり)に駐車。北に延びる尾根にあがり、忠実に尾根の踏み跡を北方向に進む。標高570m付近に北山南峰のプレートあり。踏み跡は徐々に明瞭になる。霧ヶ岳～四方草山～三子山～鈴鹿峠の周回コースとして利用価値はある。	危険箇所は特にない。
⑰	霧ヶ岳から四方草山～三子山(県境稜線)	比較的良く踏まれている。小ピークを巻く道が三重県側につけられている事が多い。四方草山の頂上は平凡。三角点、頂上の道標あり。南西隣の四方草山南峰の方が広く好展望。この後、県境稜線と坂下の老人ホーム方面への尾根の分岐点があるが間違えやすい。道標はなく、黄色テープにマジックで記載あり。その後、急降下して、キレットになる。規模は小さいが、もろい岩場で痩せているので要注意だ。固定ロープ2か所。植林帯を登り返して三子山1峰につく。1峰は眺望良く休憩適地である(2峰、3峰は眺望ない)。	坂下への分岐地点、キレットの岩場。
⑱	三子山から鈴鹿峠	三子山3峰から鈴鹿峠に向かう場合、磐座のある山頂に行く道と縦走路を間違えないようにする。上り下りはあるが、よく踏まれている。	危険箇所は特にない。

*キレット 稜線が両側に鋭く切れ込んでいる所。「切戸」

⑭安楽越から四方草山(県境稜線) 写真(61)~(70)



安楽越の熊注意看板(61)



安楽越付近のヒノキ林の中の登山道(62)



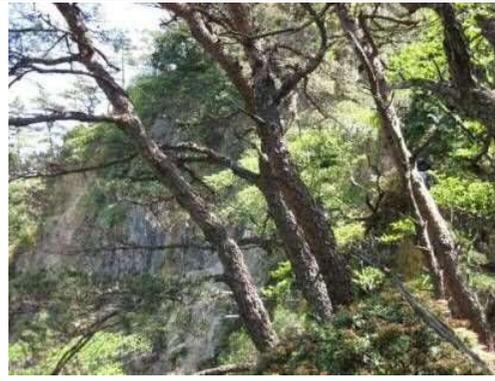
支尾根(枝道)に入らないように置き木(63)



もろい岩場でキレットになっている(64)



キレット(65)



三重県側の崩壊が激しい(66)



四方草山の最も北のこぶ、錐ヶ岳(錐山)(67)



錐ヶ岳からの眺望良い(68)



美しい双耳峰「仙ヶ岳」が見える(69)



霧ヶ岳付近の道標(間違える心配あり)(70)

⑮写真なし

⑯坂下(集落)から霧ヶ岳 写真(71)~()



植林の中の踏み跡を北へ進む。(71)



四方草山南峰は雰囲気の良い頂上(広く、眺望)。(72)

⑩霧ヶ岳から四方草山～三子山(県境稜線)



坂下の老人ホームへの下山路(踏み跡)(73)



キレット(74)



キレット(75)



三子山 1 峰 好展望(76)



三子山3峰 磐座(岩)への分岐でもある(77)



県境稜線は、途中から東海自然歩道となる。(78)



階段(79)



鈴鹿峠付近(右は土山町の茶畑)(80)

[5]高畑山とその周辺

⑱	鈴鹿峠から高畑山・溝干山、坂下峠、坂下(集落)	<p>登山口は鈴鹿峠の土山町側に駐車場、トイレがある。登山者の大部分が利用する。(三重県側の登山口は、鈴鹿峠自然の家であるが、旧東海道を約30分、片山神社(登山口)から鈴鹿峠まで約30分かかる。)鈴鹿峠からキレットまでは急登もあるが、よく踏まれている。キレットの手前にナイフリッジの注意看板あり。キレットは、ザレ場と風化した岩溝になっている。固定ロープも設置されている。常緑樹の樹林帯の上り下りをして高畑山山頂につく。展望が素晴らしい。</p> <p>溝干山まではアセビなどの灌木、笹の中の歩きやすい道。溝干山からは高畑山が一望できる。溝干山から坂下峠は急な下り。鞍部が坂下峠である。崩壊で岩石や土砂が堆積している。道標は三重県側(関町)側に立っている。国道1号線まで舗装された林道を歩く。</p>	キレットを通る登山道は、ザレ場と風化した岩溝になっている。固定ロープも設置。
⑳	坂下峠から長峰西尾根、坂下へ	<p>坂下峠から登り返しはガレ場の左側の灌木の中の道である。唐木山・那須が原方面の分岐に立つ道標があるので、左(東)に延びる尾根(長峰西尾根)に入る。標高600m付近までは笹原にアセビ(灌木)が混じった展望の良い尾根である。踏み跡には赤テープがつけられている。その後は、ヒノキの植林帯となる。3か所で南に延びる支尾根に入る心配の地点はあるが、磁石で進行方向(東の方向)を確認する。長峰(標高500m、プレートあり)の手前から北に延びる支尾根、または長峰頂上から国道に直接降りる道を利用して、国道の坂下集落到下りる。</p>	長峰に延びる尾根は、踏み跡であるので、地形図の読図力(磁石による方向確認、地形の観察も)が必須である。

①9 鈴鹿峠から高畑山・溝千山、坂下峠、坂下(集落) 写真(80)～(87)



鈴鹿峠(土山町)登山口広場(80)



広場の横の公衆トイレ 非常に清潔。(81)



キレット(ナイフエッジの標識)(82)



キレットを登る三重県高校山岳部の生徒 (83)



高畑山へ 灌木帯の道(84)



頂上は笹原で多人数も休憩可(85)



高畑山から見る溝干山(86)



溝干山から見る高畑山(87)

⑳坂下峠から長峰尾根、坂下へ 写真なし

[6]錫杖ヶ岳(向井ルート) * 福德ルートは通行止め

①	向井登山口から錫杖ヶ岳頂上	<p>関町加太向井から登るルート。駐車場もあり、よく整備されて登山者も多い。柚之木峠までは植林の中を谷沿いに歩く。木の橋 3 か所あり。峠からは急登でやせ尾根になる。木の根を利用して登る。休憩用のベンチも設置されている。頂上直下は岩場になる。固定ロープ、クサリ、ハシゴ(梯子)がつけられている。頂上からは 360 度の大展望が得られる。</p>	<p>初心者が登れるよう整備されている登山道であるが、急な岩場が多いので、特に下り時、慎重に行動すべきである。</p>
---	---------------	--	--



木の橋



柚之木峠



登山道の休憩ベンチ



頂上直下 木の根と固定ロープを利用する。



頂上直下の休憩テラス

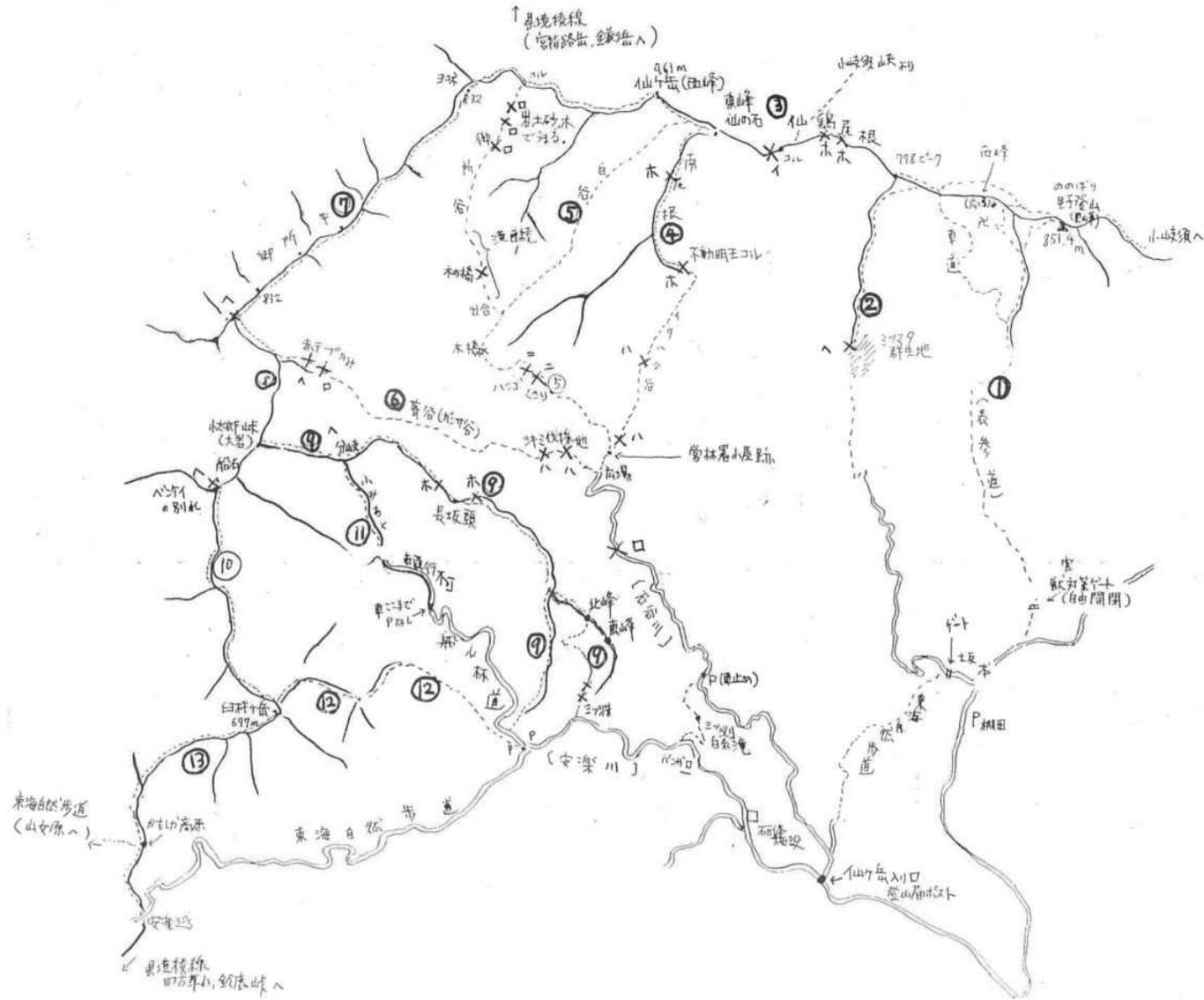


頂上直下のアルミ梯子を下る。

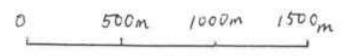
仙ヶ岳周辺

登山道の現況

(野登山, 仙岳, 御所平, 白旗ヶ岳, 鬼ヶ牙, 安楽越)



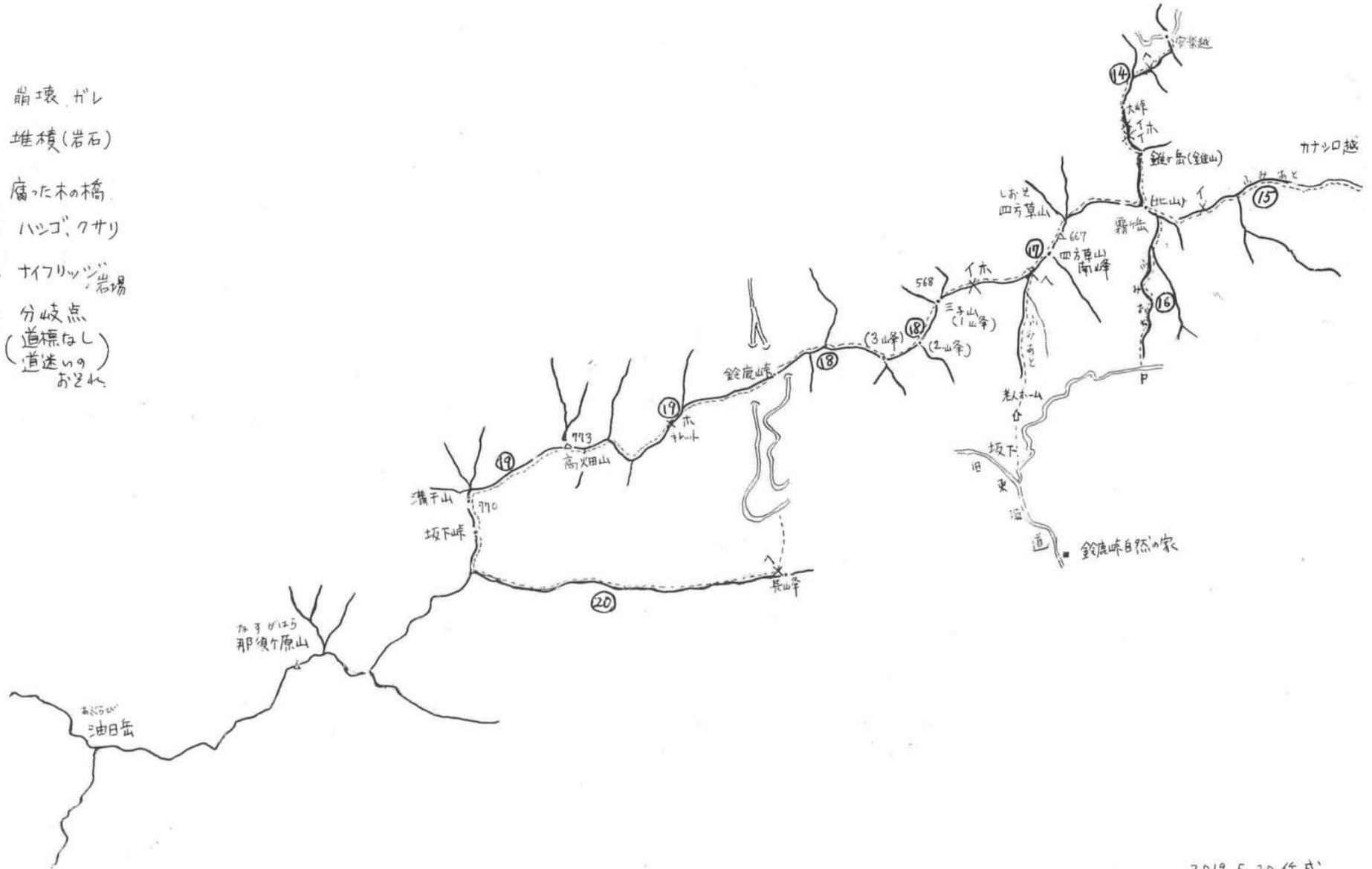
- X_イ 崩壊, ガレ
- X_オ 堆積(岩石)
- X_ハ 腐った木の橋
- X_ニ ハツゴ, クサリ
- X_ホ ナイフリック^{岩場}
- X_ア 分岐点
(道標なし)
(道迷いの
おそれ)



2019.4.24 作成
 2019.8.25 修正1
 2019.5.15 / 2

四方草山, 三子山, 高畑山 周辺

- ×_イ 崩壊 ガレ
- ×_ロ 堆積(岩石)
- ×_ハ 腐った木の橋
- ×_ニ ハツゴ、クサリ
- ×_ホ ナイフリック岩場
- ×_ハ 分岐点
(道標なし)
(道迷いの
おそれ)



仙ヶ岳登山口アクセス道路の補修作業 現地活動記録

令和元年6月8日（土）9：00～11：00

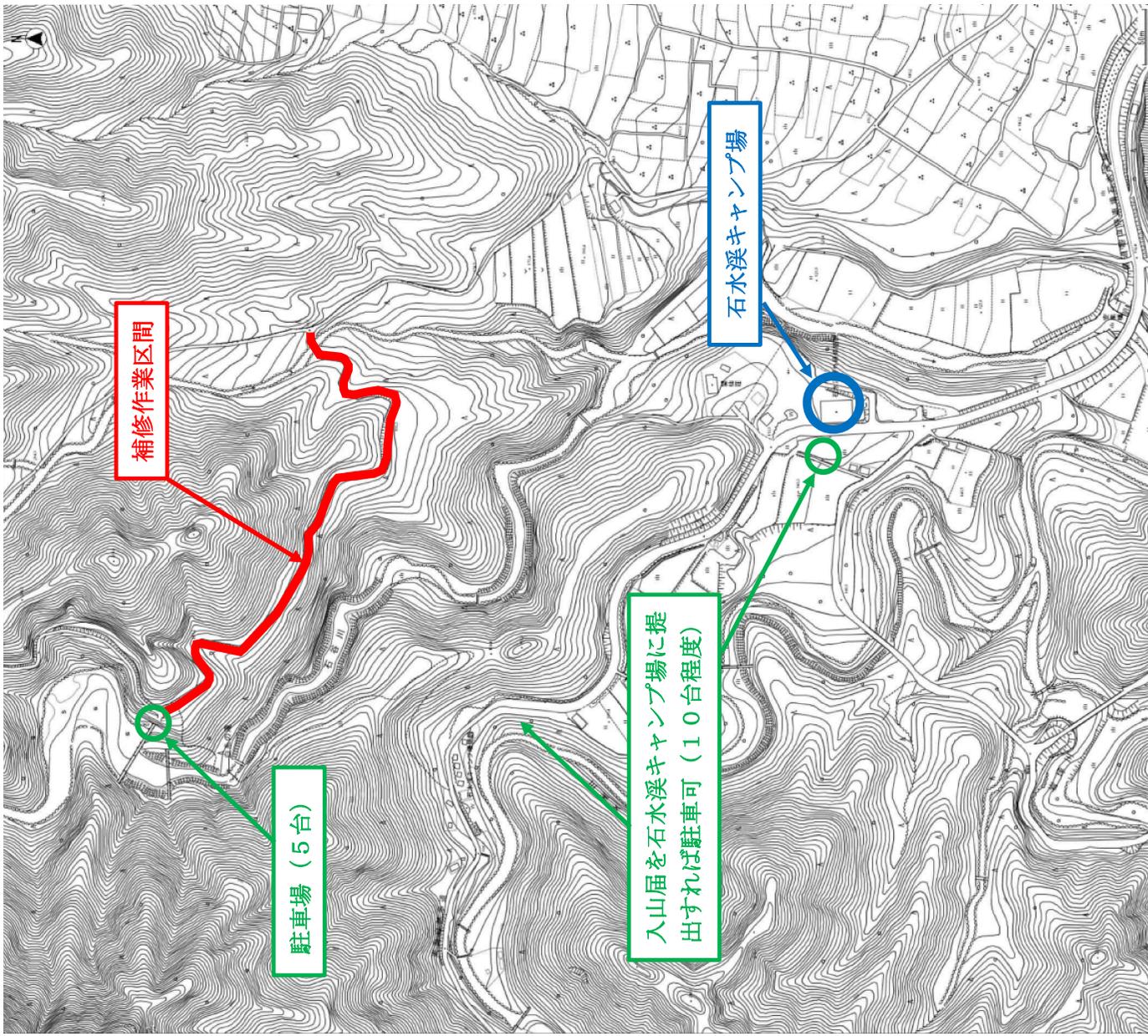
鈴鹿高等学校山岳スキ一部生徒5名、石水溪観光協会7名を含む総勢21名が参加し、石水溪観光協会松本会長の指示のもと、ネットワーク関係者が、前回同様、仙ヶ岳登山口アクセス道路で車輻通行困難になっているわだち等を土のうでの補修作業を行いました。

今回は土のうを300袋用意し、車両通行困難場所をすべて補修作業が終えることができ、登山者には安心して車両の通行していただけたようになりました。

作業区画については、仙ヶ岳登山道入口から石谷川砂防堰堤までの区間です。（詳しくは、別紙の地図をご覧ください）

活動中の作業風景と作業後のアクセス道





登山道補修活動記録

確認	作成

地図番号	作業日時	場所	登山者危険度	作業難易度	作業後危険度
	6/17	旧営林署手前	安全 1 2 3 4 5 危険 (2)	容易 1 2 3 4 5 困難 (3)	安全 1 2 3 4 5 危険 (1)
		作業内容等	写真		
①		老朽化した橋の取替			
参考	橋の取替を行ったため、登山者の転落等の大きな危険はないが、丸太橋のため雨上がり等ではスリップによる転倒の可能性がある。				

登山道補修活動記録

確認	作成

地図番号	作業日時	場所	登山者危険度	作業難易度	作業後危険度
	6/17 6/19	白谷コース 白雲の滝上流	安全 1 2 3 4 危険 ⑤	容易 1 2 3 4 困難 ⑤	安全 1 2 3 ④ 危険 5
		作業内容等	写真		
②		老朽化した橋の取替			
参考	大きな段差・老朽化した橋で登山者の転落の危険性が大きい。橋は架け替えたが大きい段差の解消には至らず、登山者自身が慎重な行動を取ることが求められる。岩場の登山道であるため補修が困難である。				

登山道補修活動記録

確認	作成

地図番号	作業日時	場所	登山者危険度	作業難易度	作業後危険度
	6/24	白谷コース 白雲の滝上流	安全 1 2 3 4 危険 ⑤	容易 1 2 3 ④ 5 困難	安全 1 2 ③ 4 5 危険
		作業内容等	写真		
③		老朽化した橋の取替	  		
参考		橋を架け替え以前の橋よりは安定したが、谷も深く写真のようにロープを使ってわたるため、登山者自身が慎重な行動を取ることが求められる。周辺に植林したスギは多く見受けられるが、間伐材がなく倒木等を利用して補修を行ったが材料となる丸太が極端に少なかったため、補修が困難であった。			

登山道(登山口～主要山頂、稜線まで)の現況 2019

◎一般ルート(ほぼ一般ルートに近い状態も含む) ○一般ルートであるが、岩場など危険箇所がある
 □登山として利用される場合もあるが、不明瞭地点があり、道迷い・ルート間違いを起こす可能性がある
 △作業道又は柵道 ■難ルート(険道、不明瞭地点が多い) ▲沢登り(遊行)ルート

山域	登山道	現況
野登山 (ののぼりや ま)	◎表参道	坂本柵田駐車場から坂本集落の中を進み、集落を過ぎると車道(東海自然歩道)と別れる。獣害対策ゲートを自分で開けて通って通過、車道はすぐに登山道になり、植林の中の広い尾根をジグザグに登っていく。車道を横切り、再び登山道に入り、しばらく進むと広場(夢想庵跡)にでる。少し車道を歩き、再び登山道に入る。やがて広場、駐車場、トイレ(古い)があり、しばらく進むと、分岐になり、左に行けば野登寺(やとうじ)への参詣道がある。右に進むと、ブナの太木や杉の巨木の林の中になる。途中の小さな池の周囲は雰囲気が良い。三角点は見過ごしやすい小さな広場になっているが展望はない。展望を見る場合は、一の谷道を2,3分歩いた国見広場が良い。北の入道ヶ岳や鎌ヶ岳が一望である。2020.1.8
	△南東尾根 (市境尾根)	野登山林道入口に駐車。2.5 万分の 1 地形図(伊船)で亀山市と鈴鹿市市境に沿う徒歩道(登山道)の点線に沿って歩く。頂上まで道形(凹状)が続いていたので、かつては野登寺への参詣路としての役割をしていたのではないかと思われる。土砂や落ち葉、枯れ木等で埋まっている地点はあるが、やぶ漕ぎはなく、尾根沿いに充分歩ける。古い黄色のテープ類の表示はある。標高 750m くらいから天然林(2 次林)が多くなり良い雰囲気である。2020.1.6
	◎ミツマタ尾根(仮称)	坂本柵田駐車場から、集落内の分岐を左にとり、獣害防止ゲートを通過して、しばらくは林道を進む。途中、荒れた茶畑から矢原川に下る地点あり。山道になり、小さな沢を 2 か所越えると古い作業小屋があるが、このあたりからミツマタ群生地になる。群生地は谷の中で、西側の尾根に取り付き、ミツマタ尾根を北方向に登り始める。この尾根を下る場合は、ミツマタ群生地に鋭角的に左に曲がるので注意したい。急であるが、歩きやすい植林の中の尾根道をあえぎ、登る。最後のジグザグを、右方向に斜面を進むと、仙鷲尾根の鞍部に出る。2019.12.12
	○野登山国見広場～鳩ヶ峰	国見広場からコル(マド)までは小岐須一の谷コースの一部。やや急な箇所あるが問題なし。コルに鳩ヶ峰・庄内への標識(難路)あり。ままり踏まれてはいないが忠実に尾根を外さなければ鳩ヶ峰(710m ピーク)に到達できる。
	△鳩ヶ峰～西庄内(上野かみの)	テープは北東尾根(土石採掘場)につけられているので要注意。 2.5 万分の 1 地形図には徒歩道として記載されているが、実際にはない。(古いビニールテープ 1 つ発見、杭は数本確認したが何を示すものか不明) 頂上から南東方向に急斜面を適当に下る。岩崖などはない。2 か所目の急な斜面から東南東に延びる尾根を探すのが難しかった。このあたりで古い登山道らし

		き踏跡が現れてくるが作業道か、けものみち、の判別は困難。東南東に延びる尾根に乗ってからは、明瞭な作業道(古い登山道)になる。チェーソーの声が生きて森林組合の方が私たちを見て驚く(登山者は皆無とのこと)。堰堤が見えて、車道に出る。山の神駐車場まで、森林組合の方の車で送ってもらう。2019.12
	○仙鷄尾根	野登山の車道(仙鷄尾根分岐)からいったん下った鞍部にミツマタ尾根が合流する。植林帯を登り返して 778m のピークとなり、獲せた岩尾根、ガレ場、崩壊地が連続する。固定ロープもあるが、足元がしっかりしている者、登山靴を着用している者でないと辛く危険でもある。崩壊地は特に危険で、木の根、立木も利用しなければならぬので、掴むときには安全を確認して利用する。2019.12. 12
仙ヶ岳	○南尾根	石谷川林道に新しい落石が3か所あり。歩行には支障はない。林道終点が小広場で、5分先に旧営林署小屋跡があり、白谷、南尾根の分岐になっている。炭焼き跡を過ぎてイタハシ谷の右岸側(主)を進む。狭まった谷の右岸側には固定ロープや古い橋があるが、腐った橋も落ちてしまっており、迂回路を設定した。不動尊コル手前の谷上部も急な斜面になっており、落石や浮石に注意する。不動尊コルからすぐの岩場は右側から巻けるが不明瞭である。数か所の岩峰のアップダウンを繰り返す。岩峰3につけておいた目印の赤テープがなくなっている。岩峰からの展望よく、琵琶湖、知多半島などはっきり見える。2019.9. 25
	○白谷 (下りを記述)	(ハンゴ・くざりがざりがあり、大人数、大ザックのパーティーには不適當) 源頭部の分岐(三角点と仙の石)に道標設置。白谷上流部は谷芯を下るが、木の枝の赤テープが目印、道は不明瞭である。渡渉を繰り返す。渡渉点には表示(赤テープ)が必要である。(白谷の西の尾根)に上がる道との分岐には道標必要。谷の左岸側にトラロープ(20m)必要箇所あり。ハンゴの注意表示必要。2019.25
	■御所谷	白谷の「御所谷分岐」から入る。入口に表示があり、地形図にも点線がついている。入口から滝が連続するが総じて暗い谷であり、10mの滝は右岸側を巻くが足場は悪いので要注意である。途中で河原状になるが、その上流部で道は消える(土砂や倒木などで埋没して、荒廃)。谷芯を忠実に詰めれば御所峠にできる。
※御所平	□ 御所平 ヨコネ～ミズ ナシ	県境稜線がゆるやかな斜面になり約 1500m 続いている。樹林帯、笹原、ススキ原で、展望が素晴らしい。北東端の P(ピーク)がヨコネ、南東端の手前の P がミズナシ。ヨコネ周辺はアセビの大きな木が点在して、鹿よけの金網があるが、大半は倒れている。ゆるやかなアップダウンを繰り返して南下する。道は不明瞭な部分もあり、視界不良の時などは常に、磁石で進行方向を確認したい。
	■ガンサ谷 葦谷ふきたに	葦谷の最上流域をガンサといい、ガンサ谷とも呼ばれる。石谷川林道の終点の広場の横から入る。入口には「七つ釜」の表示があるが、地形図が読めないところにくい。しばらく道は明瞭ではあるが、木の橋の大部分は朽ちて、道をシダが覆っている。渡渉箇所もある。付近はシキミの伐採地であったので、入山者があつたと思われる。ガンサ谷の中流部は河原状になり堰堤もみられる。上流部で

<p>※鬼ヶ牙 (おにがき ば)</p>	<p>◎鬼ヶ牙・三 つ淵ルート (実際は■)</p>	<p>右岸側のガレ場、小尾根状の急登となる。ガレ場では踏み跡が消えているので注意を要する。地形図の県境の崖が見えてくるので不安定な急登をよじ登り、稜線にでる。小太郎峠である。インターネット等の書き込みで、ここを「家老平」としているものがあるが、不確かである。 本コースは、石谷川林道に駐車して、ガンサ谷…御所平…仙ヶ岳…(御所谷、南尾根又は白谷)の周回コースとして利用される場合あり。 鈴鹿の山ハイキング(中日新聞社)「鈴鹿の山を歩く(ナカニシヤ)」でも紹介されているので、低山歩きを趣味としているハイカー(登山愛好者)が入山する。</p>
	<p>□鬼ヶ牙・舟 石林道入口</p>	<p>三つ淵が入り口(亀山市・鈴鹿国定公園協会の道標)のルート。谷ルートで、固定ロープがあるが、険悪で滑りやすく、危険である。 船石林道分岐を林道方向に少し進むと入口あり。尾根沿いの急な登りである。ザラザラとした風化した岩が多い。北峰(本峰)・南峰への分岐には道標有り。さらに道標(注意表示)が必要。</p>
	<p>▲カクレ谷</p>	<p>沢登りコース 遊行説明必要</p>
	<p>▲東の谷</p>	<p>船石林道の途中から漣渉して、東の谷に入る。踏み跡はあるが木の枝と蜘蛛の巣が顔によく当たる。歩く人は少ない。最終の二股で、右の谷に入ってしまう。結局、さらに左上に延びる尾根を登り、長坂尾根に合流する。2019. 12. 5</p>
<p>白杵ヶ岳 (うすきねが だけ)</p>	<p>○ウス・キ ネ岩 縦走コ ース</p>	<p>登山口周辺はシダでやや不明瞭。小さな谷に沿う。途中から急な尾根道になる。展望はきかない。2 か所仙ヶ岳方面の眺望がある平坦地あり。ウス岩・キネ岩から以降は、展望が良い。白杵山(630p)から鞍部(臼杵峠)まで下り、上り返すと船石林道との分岐。南に、樹林の道を進むと臼杵ヶ岳の頂上となる。三重県側の展望良い。仙ヶ岳から野登山、伊勢湾、経ヶ峰と鋤ヶ岳、明屋ヶ岳が一望である。余裕があれば東に2, 3 分の展望岩まで行ってみたい。2019.12. 7</p>
	<p>△花の木谷 南尾根</p>	<p>サクジ谷の右から尾根にのる。赤テープ有り。525p は明瞭なピークだが展望はない。540～545mは露岩で右側を巻く。560m で右に大きく巻く(展望岩をまく。)赤テープに導かれて斜面を上がり、650m 付近の尾根上にあがる。5 分で頂上に達する。(後に、展望岩周辺を探索したが、直登ルート発見できず、巻き道で、本尾根を下山した。1か所二股で左尾根に入るが、引き返して、本尾根に戻れた。)</p>
<p>四方草山 (しおそやま)</p>	<p>▲花の木谷 ◎県境尾根 安楽越・頂上 □老人ホー ム尾根</p>	<p>沢登りコース 遊行説明必要 安楽越からかもしか高原までは東海自然歩道の区間で、急な部分は階段が設置されている。 老人ホーム「華旺寿」の上(車道の最終)又は下(坂の下)に駐車。すぐに尾根の末端があるので、尾根に沿った踏み跡を登る。古い赤テープあり。途中で踏み跡が二重になることもある。標高 670m 付近で郡境尾根が合流。標高 600m 付近で県境縦走路の分岐が間違えやすい。表示板あり。四方草山南峰には、右に縦走</p>

※霧が岳	路(急登)を進む。南峰は仙ヶ岳、明星ヶ岳、坂下、高畑山の展望良好。 林道鈴鹿南線を坂下から入り、群境尾根、筒露谷の次の尾根が入口。尾根に沿って北上すれば北山南峰を経由して北山、霧が岳に楽に到達できる。ほとんど植林帯の中。地図読みと磁石必携。
三子山	■若妻谷 比較的歩きやすい(「鈴鹿の山と谷 6」)と記載されているので入ってみました。地域の方が子供のころマツタケを探りに行ったという道は廃道化しており、滝を巻く部分も大体は崩れている。間伐材が両側から落下して谷を埋めている。全体的に暗い谷である。下りは使用不可能と思われる。2019.9. 26
	△中峰南尾根(下り) 標高 480m 付近から下にテープあり。480m～420m 付近は急傾斜で歩きにくい。標高 400m 付近は平らで幅広い伐採跡。赤テープあり。標高 400m～300m は再び急傾斜地、植林の中の仕事道が縦横にはしる。伐採林で歩きにくい。最後は堰堤の池を昇って急降下する。2019.9. 26
高畑山	◎鈴鹿峠より 県境で頂上へ 土山町の駐車場から登る。630mpまでの急な部分をすぎると緩やかなアップダウンになる。キレット(ナイフリッジ)は難なく通過。すれ違い時は、一方が待つべき。2 回目の長い登りで 568P に着く。展望が良くなる。高畑山は 3 つのピークからなる。最後の登りで頂上に到着。約 90 分である。頂上一帯は樹木がなく、360 度の大展望。斜面も利用すれば 100 人程度休憩可能。2019.5～9
	△林道下降 尾根 A コー ス 高畑山頂上の 1 つ手前のピークから南に尾根を降りるルート。尾根を外さないように磁石と地形(尾根の芯)をみて下る。古い赤テープ、うすい踏み跡はある。B に比べて、やや急な箇所が 2 つあるが植林の土の斜面。地形図等高線で判読可。2 つ目(林道に降りる箇所)を慎重に林道(神大滝林道)に出る。2019.8
	△林道下降 尾根 B コー ス 高畑山から溝干山への稜線に、直角に曲がる地点の手前 250m のピークから南東に延びる尾根を下る。登る場合も利用しやすい。県境稜線から尾根に入る地点には踏み跡がないので、地形図、尾根をみて入る。すぐ踏み跡が現れ、その後明瞭な道になる。1 か所急な部分があり固定ロープがつけられている。2019.9
※溝干山 (みぞぼせや ま)	△林道下降 尾根 C 溝干山の頂上に、東方向に赤リボンがつけられているので、気になっていた。 下の林道最後の広場(ホンダ組合の看板あり)付近から溝干山方向に登り道がつけられているようなので登ってみました。途中までは作業道がつけられており、それは途中から西の溝干山・坂下峠間の途中に続いていた。赤リボンは尾根筋にあり、アゼビの森の中の尾根を登り、溝干山頂上にてることができた。

錫杖ヶ岳	◎ 加太 (向井)ル ート 駐車場は 10～15 台可能。登山口表示あり。登山口から頂上まで、整備されている。約 2 キロで、200m 毎に表示がある。柚之木峠から急登になり、頂上直下の岩場には固定ロープ、棧橋が設置されている。頂上は狭いが、360 度の大展望が楽しめる。また頂上から南側に 10m 下ったところに東屋があり休憩ができる。 地形図にある登山道はないが、ルートはある。(未記載)
------	--

	一ト	
	■ 福徳ル 一ト (下 り)	小雀の頭の北方に 2 つある小ピークからの眺望良い。歩きやすい稜線の道、ゆるやかなアップダウンはある。509pから進行方向は北東方向になる(わかりやすい)。途中から広い斜面を適当に降りる。右下の谷に降りると林道(地道、草が茂る)となり、真谷林道との分岐に表示プレートがある。(2019.12. 11)
	○ 小雀の 頭(縦走)	(未記載)
	■ 石 山 観 音尾根	車道を少し歩き、尾根に上がると赤リボンが、約 10m 間隔である。明瞭な尾根にうすい踏み跡あり。マツと照葉樹(サカキ等)が多い。鯨尾根の末端(400mp)は平たい石もあり、山の名前をつけても良いかも。鯨尾根分岐を見落としたため、2 つ先のピーク、南西方向と南東方向(長徳寺尾根)に分岐、まで行く。末端まで戻る。最初の急な下りは木の幹(根)につかまらないと下れない。4 つ先のピークで、第 2 石山観音尾根に入るつもりが、5 つ先のピーク(手前も、悪場)で、右側の尾根に入ってしまう。中電の鉄塔があるためか赤リボンがあり、鉄塔からは保全路を利用する。第 2 石山観音尾根の途中に復帰して尾根を下る。赤リボンあり。石山観音まで歩けそうだったが、途中で右の林道に降りる。(2019.12. 9)

※明星ヶ岳	◎ 国分寺 コース	白木一色の集落から農道を進むと広い国分寺駐車場に着く。車を置いて、簡易舗装路を歩いて国分寺に向かう。なお上白木の側からも、4、5 台駐車可能地があり、国分寺に行くことができる(どちらも大差ない)。 国分寺から鐘樓の左側から登山路を確認して登りだす。植林の中のはっきりした尾根道である。やがて平坦な尾根道になり、東峰(三角点 549m)の到着する。展望はほとんどない。このルートを下る場合、東峰を含めて、東に延びる尾根に入らないよう注意する。約 10 分で西峰に到着できる。こちらは 360 度の大展望を楽しむことができる。特に、真正面には四方草山がどっしり構えている。
	■ 南 東 沢 コース	(未記載)
	■ 西 尾 根 コース	(未記載)
※ 花 の 木 339m	□ 花 の 木	(未記載)

展望台～羽黒 山～筆捨山	◎ (一部東海 自然歩道)	(未記載)
-----------------	------------------	-------